

2021年度（2020年度実施）公立はこだて未来大学入学者選抜について〔予告〕

公立はこだて未来大学は「オープンスペース・オープンマインド」をモットーとし、システム情報科学分野に関わる講義、演習・実習、討論、フィールドワーク等を組み合わせることにより、学生の主体的な学びを促進させるカリキュラムを実施しています。このことから、本学で学ぶにあたっての基盤となる「学力の3要素」（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」）をより多面的・総合的に評価するため、2021年度入試（2020年度実施）の入学者選抜を次のとおり実施します。

(1)入試区分（入学者選抜の名称）の変更

現行の一般選抜入試、AO（アドミッション・オフィス）入試、特別選抜（推薦）入試の名称を以下のとおり変更します。

変 更 前	変 更 後
一般選抜入試	一般選抜
AO（アドミッション・オフィス）入試	総合型選抜
特別選抜（推薦）入試	学校推薦型選抜

(2)調査書等の活用

【一般選抜】

公立はこだて未来大学のカリキュラムは、学力の3要素である「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」、アドミッションポリシーにおいて定める「システム情報科学に関わる素養」を育むことを目標としています。このことから、全志願者のこれまでの学びや活動を確認するため、調査書等の提出（※）を求めます。

ただし、一般選抜においては、調査書等の書面上だけでは、多彩な学問領域を基盤とするシステム情報科学分野に対する適性や可能性を適切に評価することは非常に困難と考えます。そのため、提出された調査書等は選抜（合否判定）には使用せず、入学後の教育および進学・就職支援のための参考資料として活用することとします。

※1 調査書を作成する高等学校等においては、「指導上参考となる諸事項」への積極的な記載を望みます。

※2 高等学校卒業程度認定試験合格者等に該当する者は、調査書に代わり、合格成績証明書等のほか、「主体性等に関する自身の経験の記載」を求めることとします。

【総合型選抜・学校推薦型選抜】

選抜で実施する「対話面接」（後述）において、「思考力・判断力・表現力」および「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を評価するに当たり、活用します。

(3)一般選抜(前期・後期)における選抜方法

- ・ 「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を多面的・総合的に評価するため、大学入学共通テストを合格者の判定に活用し、択一式問題とともに記述式問題も評価の対象に加えるほか、一般選抜(前期)においては、本学が実施する個別学力検査(数学・外国語(英語))を実施します。
- ・ 国語は、記述式問題の段階別成績を点数化した得点とマークシート式問題の得点とを合わせて評価します。
- ・ 数学①は、記述式問題とマークシート式問題が一体で採点される予定であることから、その得点に基づいて評価します。
- ・ 2021年度入試においては、公平性の観点等から、大学入学共通テストの枠組みにおける英語外部認定試験(「大学入試英語成績提供システム」の参加要件が確認された民間の英語試験)の受験は求めず、成績結果を合否判定に用いることもしません。なお、2022年度入試(2021年度実施)については、今後の英語外部認定試験の実施状況等を踏まえ検討します。(検討結果は別途予告します。) ※

※ 英語の4技能(「読む」「聞く」「話す」「書く」)に関して、本学の学びにはCEFR-A2レベル程度の英語コミュニケーション能力を備えていることが望ましいと考えており、それら4技能を適切に評価することは重要と考えています。

しかしながら、大学入学共通テストの枠組みにおける英語外部認定試験においては、地理的・経済的な条件等を問わない受験体制の整備、公平公正な成績評価方法など、当初から指摘されていた多くの問題に対して、未だ解決の見通しが立っていない状況と認識しています。

新たな入学者選抜方法は、公立大学として高い公平性が求められると考えております。このことから、現在の状況においては、2021年度入試で、出願要件として大学入学共通テストの枠組みにおける英語外部認定試験での一定レベル以上の成績取得を求め、その結果を合否判定に用いるべきではないと判断したものです。

出願要件	<p>次の各号のいずれかに該当し、かつ2021年度大学入学共通テストで本学の指定する教科・科目を受験した者</p> <ul style="list-style-type: none">・ 高等学校または中等教育学校を卒業した者および2021年3月卒業見込みの者・ 通常の課程による12年の学校教育を修了した者および2021年3月修了見込みの者・ 学校教育法施行規則第150条の規定により高等学校を卒業した者と同程度の学力があると認められる者および2021年3月31日までにこれに該当する見込みの者
------	--

(教科・科目) ※ 各教科・科目の配点については、決まり次第お知らせします。

大学入学共通テスト [4教科5科目または6科目] (前期・後期共通)			個別学力検査			
教科	科目		教科	科目		
前期日程	国語	『国語』(注1) (「近代以降の文章」のみ)		前期日程	必須問題	数学Ⅰ, 数学Ⅱ, 数学A, 数学B
	数学	必須	『数学Ⅰ・数学A』 (注2)		選択問題	数学Ⅰ, 数学Ⅱ, 数学A, 数学B
		選択	『数学Ⅱ・数学B』 ----- 『情報関係基礎』			数学Ⅲ
	外国語	英語(注5)		外国語	英語(注5)	
後期日程	理科	選択(注3)	「物理基礎」 「化学基礎」 「生物基礎」 「地学基礎」 ----- 「物理」 「化学」 「生物」 「地学」	後期日程	個別学力検査は課さない	
		外国語	『英語』 (リスニングも課す。)			

選
抜
方
法
等

(注1) 『国語』のうち、記述式問題の段階別成績を点数化した得点とマークシート式問題の得点とを合わせて評価します。

(注2) 『数学Ⅰ・数学A』は、記述式問題とマークシート式問題が一体で採点されることから、その得点に基づいて評価します。

※ ただし、大学入試センターの方針に変更があった場合は別途検討します

(注3) 「物理基礎」、「化学基礎」、「生物基礎」および「地学基礎」から2科目を選択、または「物理」、「化学」、「生物」、および「地学」から1科目を選択します。(2科目以上受験した場合は、高得点の科目の成績を使用します。)

(注4) 一般選抜(前期日程)試験 数学出題ポリシー 参照

(注5) ① 一般選抜(前期日程)試験 英語出題ポリシー 参照

② 英語辞書の持込み可

本学の考える辞書の活用意義とは、文章の要になるような単語・熟語の適切な意味や用例をその場で調べるといことです。そうした辞書の活用は、本学の英語教育(コミュニケーション)において実践的な英語力のひとつと考えます。したがって、試験での辞書の持込みを認めます。

辞書の種類は、書籍型の英和、和英および英英とし、持込める冊数は各1冊です。電子辞書の使用は認めません。

付箋等はあらかじめしておいてください。また、辞書の余白部分に文章や文例等の書込みを用意し解答に使用するなど、本学の考える辞書の活用意義から逸脱すると判断される行為は、不正行為とみなす場合があります。

(4) 総合型選抜・学校推薦型選抜における選抜方法

システム情報科学分野に強い関心と興味を有し、学ぶための十分な基礎学力があること、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を評価するため、「適性検査」および「対話面接」を行います。

(選抜時期に変更はありません)

- ・ 適性検査では、総合問題Aで言語理解・言語表現の基礎的な能力を評価するための出題を行い、総合問題Bでは理数系の基礎的な能力を評価するための出題を行うこととします。(詳細は後述の出題内容等および各出題ポリシーを参照のこと)
- ・ 対話面接では、面接員との「対話」を通じて、学力の3要素のうちの2要素、「思考力・判断力・表現力」および「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を評価します。

【総合型選抜】

出 願 要 件	<ul style="list-style-type: none">・ 次のいずれかに該当する者<ol style="list-style-type: none">① 高等学校または中等教育学校を卒業した者および2021年3月卒業見込みの者② 通常の課程による12年の学校教育を修了した者および2021年3月修了見込みの者③ 学校教育法施行規則第150条の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者および2021年3月31日までにこれに該当する見込みの者・ 公立はこだて未来大学の教育内容を十分理解したうえで、本学において学ぶことを強く希望し、合格した場合には必ず入学することを確約できる者・ 「数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学A、数学B」を履修している者、あるいはこれと同等の学力を有する者・ 理数系の分野に強い興味を持ち、自己推薦の根拠となる具体的な活動実績を有する者
------------------	--

出願書類，適性検査および対話面接によって選考します。

※ 大学入学共通テストは課しません

試験内容等(注1)

適性検査	総合問題A (150点) (注2)	言語理解・言語表現の基礎的な能力を評価するため、以下の出題を行います。 1. 日本語能力を問う問題 2. 英語能力を問う問題(注3)
	総合問題B (150点) (注4)	理数系の基礎的な能力を評価するため、以下の出題を行います。 1. 基礎的な数学能力を問う問題 2. データに関する基礎的な問題 3. 情報に関する基礎的な問題
対話面接 (注5)	(300点)	プレゼンテーション能力とともに、面接員との「対話」を通じて、「思考力・判断力・表現力」と「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」，および本学に対する適性などを評価します。

「日本語能力を問う問題」および「データに関する基礎的な問題」については、2019年度内にサンプル問題を公表予定です。

選
抜
方
法
等

(注1) 総合問題A・総合問題Bについて、それぞれに設定する基準点を下回った場合は合格者とはなりません。

(注2) 総合問題A出題ポリシー 参照

(注3) 英語辞書の持込み可

本学の考える辞書の活用意義とは、文章の要になるような単語・熟語の適切な意味や用例をその場で調べるといことです。そうした辞書の活用は、本学の英語教育(コミュニケーション)において実践的な英語力の一つと考えます。したがって、試験での辞書の持込みを認めます。

辞書の種類は、書籍型の英和、和英および英英とし、持込める冊数は各1冊です。電子辞書の使用は認めません。

付箋等はあらかじめおいてください。また、辞書の余白部分に文章や文例等の書込みを用意し解答に使用するなど、本学の考える辞書の活用意義から逸脱すると判断される行為は、不正行為とみなす場合があります。

(注4) 総合問題B出題ポリシー 参照

(注5) 対話面接では、あらかじめ準備/練習/暗記した内容を機械的に述べるのではなく、その場で示された問いについて、よく考え、わかりやすい言葉で表現し、他者と理解し合おうとする態度や試みを重視します。

プレゼンテーションでは、志望動機や将来の目標のみを述べるのではなく、「これまでの活動実績(自己推薦資料)」について、具体的な説明を求めます。プレゼンテーションと志望理由書に基づき、対話面接を行います。(対話面接では資料として調査書も活用します)

【学校推薦型選抜】

<p>出願要件</p>	<p>① 本学で修学するための能力，適性について在学高等学校長が責任をもって推薦できる者（調査書の数学，理科または全体の評定平均値のいずれかが3.5以上の者が望ましい。）</p> <p>② 合格した場合には，必ず入学することを確約できる者</p> <p>〈指定校〉 本学が指定する北海道渡島・檜山管内の高等学校を2021年3月卒業見込みの者で，上記①②のいずれにも該当する者</p> <p>〈地域枠〉 「北海道」または「青森県」内の高等学校もしくは中等教育学校等を2021年3月卒業見込みの者で，上記①②のいずれにも該当する者</p> <p>〈全国枠〉 高等学校もしくは中等教育学校等を2021年3月卒業見込みの者で，上記①②のいずれにも該当する者</p>											
<p>選抜方法等</p>	<p>区分により以下のとおり選考します。</p> <p>※ <u>大学入学共通テストは課しません</u></p> <p>〈指定校〉 出願書類および対話面接により総合的に評価し選考します。</p> <p>〈地域枠・全国枠〉 出願書類，適性検査および対話面接により総合的に評価し選考します。</p> <table border="1" data-bbox="381 1245 1291 1697"> <thead> <tr> <th colspan="3">試験内容等（注1）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">適性検査</td> <td>総合問題Ⅰ (150点) (注2)</td> <td>言語理解・言語表現の基礎的な能力を評価するため，以下の出題を行います。 1. 日本語能力を問う問題 2. 英語能力を問う問題（注3）</td> </tr> <tr> <td>総合問題Ⅱ (150点) (注4)</td> <td>理数系の基礎的な能力を評価するため，以下の出題を行います。 1. 基礎的な数学能力を問う問題 2. データに関する基礎的な問題</td> </tr> <tr> <td>対話面接 (注5)</td> <td>(200点)</td> <td>面接員との「対話」を通じて，「思考力・判断力・表現力」と「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を評価します。</td> </tr> </tbody> </table> <div data-bbox="414 1733 1254 1850" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>「日本語能力を問う問題」および「データに関する基礎的な問題」については，2019年度内にサンプル問題を公表予定です。</p> </div> <p>(注1) 総合問題Ⅰ・総合問題Ⅱについて，それぞれに設定する基準点を下回った場合は合格者とはなりません</p> <p>(注2) 総合問題Ⅰ 出題ポリシー 参照</p>	試験内容等（注1）			適性検査	総合問題Ⅰ (150点) (注2)	言語理解・言語表現の基礎的な能力を評価するため，以下の出題を行います。 1. 日本語能力を問う問題 2. 英語能力を問う問題（注3）	総合問題Ⅱ (150点) (注4)	理数系の基礎的な能力を評価するため，以下の出題を行います。 1. 基礎的な数学能力を問う問題 2. データに関する基礎的な問題	対話面接 (注5)	(200点)	面接員との「対話」を通じて，「思考力・判断力・表現力」と「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を評価します。
試験内容等（注1）												
適性検査	総合問題Ⅰ (150点) (注2)	言語理解・言語表現の基礎的な能力を評価するため，以下の出題を行います。 1. 日本語能力を問う問題 2. 英語能力を問う問題（注3）										
	総合問題Ⅱ (150点) (注4)	理数系の基礎的な能力を評価するため，以下の出題を行います。 1. 基礎的な数学能力を問う問題 2. データに関する基礎的な問題										
対話面接 (注5)	(200点)	面接員との「対話」を通じて，「思考力・判断力・表現力」と「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を評価します。										

(注3) 英語辞書の持込み可

本学の考える辞書の活用意義とは、文章の要になるような単語・熟語の適切な意味や用例をその場で調べるといことです。そうした辞書の活用は、本学の英語教育(コミュニケーション)において実践的な英語力のひとつと考えます。したがって、試験での辞書の持込みを認めます。

辞書の種類は、書籍型の英和、和英および英英とし、持込める冊数は各1冊です。電子辞書の使用は認めません。

付箋等はあらかじめはずしておいてください。また、辞書の余白部分に文章や文例等の書込みを用意し解答に使用するなど、本学の考える辞書の活用意義から逸脱すると判断される行為は、不正行為とみなす場合があります。

(注4) 総合問題Ⅱ出題ポリシー 参照

(注5) 対話面接では、あらかじめ準備／練習／暗記した内容を機械的に述べるのではなく、その場で示された問いについて、よく考え、わかりやすい言葉で表現し、他者と理解し合おうとする態度や試みを重視します。(対話面接では資料として調査書および推薦書も活用します)

一般選抜（前期日程）試験 英語出題ポリシー

英語能力を問う問題は、高等学校学習指導要領等を踏まえながら、出題する文章と問題に独自の焦点を持たせています。おもに、科学およびデザイン、技術に関する場面において、情報や考えを理解したり伝えたりする能力を以下のとおり評価します。

また、試験において、辞書の使用を認めています。文章の要になるような単語の意味がわからないときに、単語の適切な意味をその場で見出すという辞書の活用は、本学の英語教育において実践的な英語力の一つと考えるためです。

1) 読解力

- 文章の要点や概要を理解する。
- 質問の要点を明確にし、与えられた文章の文脈と照らし合わせて適切な答えを選ぶ。
- 文章の中から特定の情報を見つける。
- 論点を明確にする中で、その論点と文章の構成や図表などの関係に着目する。

2) 構成力・表現力

- 自分が聞いたり、読んだり、学んだり、経験したりしたことに基づいた情報や考え方について、一貫したまとまりのある文章を書き伝える。
- 与えられた文章に示された情報に基づき、理論的で明確な文章を書く。
- 論点を明確にする中で、その論点と文章の構成や図表などの関係に着目する。

大学では、教員の講義を聞いたり、日本語あるいは英語で書かれている書籍や論文を読んだりすることにより、さまざまな知識を得ていきます。また、与えられた課題の意図を正確に把握してレポートなどを作成したり、簡潔な試験答案を書いたりすることが求められます。総合型選抜試験における総合問題A、学校推薦型選抜試験における総合問題Iでは、このような学習を自律的に進めていくために必要となる、言語理解・言語表現の基礎的な能力について日本語および英語の両面から問います。

1. 日本語能力を問う問題

日本語能力を問う問題では、以下の2点を評価します。これらの能力は、文系・理系にかかわらず、小学校から中学校、高等学校へと進む中で徐々に養われていくものと考えられます。

1) 論理的な思考力・理解力

- ・ 因果（原因と帰結）、相関、比較、並列、階層構造など、情報間の関係がわかる。
- ・ 情報を適切に分類できる。
- ・ 情報の抽象度の違いがわかる。
- ・ 情報の重複、話題の不整合、論理の飛躍などの文章上の問題点を発見できる。

2) 適切に説明する能力

- ・ 言葉の意味を理解し、日本語として適切な言葉・文法を用いて説明できる（語彙力）。
- ・ 文章の読み手に合わせて説明の仕方を工夫できる。
- ・ 主張・理由づけ・証拠による、説得力のある説明ができる。

2. 英語能力を問う問題

英語能力を問う問題は、高等学校学習指導要領等を踏まえながら、出題する文章と問題に独自の焦点を持たせています。おもに、科学およびデザイン、技術に関する場面において、情報や考えを理解したり伝えたりする能力を以下のとおり評価します。

また、試験において、辞書の使用を認めています。文章の要になるような単語の意味がわからないときに、単語の適切な意味をその場で見出すという辞書の活用は、本学の英語教育において実践的な英語力の一つと考えるためです。

1) 読解力

- ・ 文章の要点や概要を理解する。
- ・ 質問の要点を明確にし、与えられた文章の文脈と照らし合わせて適切な答えを選ぶ。
- ・ 文章の中から特定の情報を見つける。
- ・ 論点を明確にする中で、その論点と文章の構成や図表などの関係に着目する。

2) 構成力・表現力

- ・ 自分が聞いたり、読んだり、学んだり、経験したりしたことに基づいた情報や考え方について、一貫したまとまりのある文章を書き伝える。
- ・ 与えられた文章に示された情報に基づき、理論的で明確な文章を書く。
- ・ 論点を明確にする中で、その論点と文章の構成や図表などの関係に着目する。

一般選抜（前期日程）試験 数学出題ポリシー

一般選抜（前期日程）試験における数学の出題では、入学後の初年度基礎数学科目を学ぶ上で困難が生じないレベルの基礎事項を習得できているか否かを問います。システム情報科学分野を学ぶにあたり必要となる「学力の3要素」のうち「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を多面的・総合的に評価します。正解に至るだけでなく、正解に至る論理的に正しい過程を適切に表現できるかといった表現力なども重要な要素となります。

数学の問題は、「必須問題」と「選択問題」から構成されています。「必須問題」の出題範囲は、「数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学A、数学B」です。「選択問題」の出題範囲は、「数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学A、数学B」または「数学Ⅲ」のいずれかの選択とします。

1. 必須問題（「数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学A、数学B」）

主として基礎事項に関する学力を確認するための問題を2問程度出題します。

2. 選択問題（「数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学A、数学B」）

数学Ⅰ、数学A、数学Ⅱ、数学Bの範囲から、複数の事項を活用した多面的・総合的な学力を問う問題を2問程度出題します。

3. 選択問題（「数学Ⅲ」）

必須問題と同様、主として基礎事項に関する学力を確認するための基本的な問題を2問程度出題します。

総合型選抜試験 総合問題B出題ポリシー

総合型選抜試験における総合問題Bでは、システム情報科学分野を学ぶにあたり必要となる「学力の3要素」のうち「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を多面的・総合的に評価します。数学または情報科学に現れる様々な事項を理解して論理的に考察したり処理したりすること、さらには身近な事象の理解を深めたり問題解決といった「数学的活動」に関する基礎的な知識の理解と活用力を問います。

総合問題Bは、3つの異なる出題範囲の問題から構成されています。

1. 基礎的な数学能力を問う問題

主として「数学Ⅰ，数学Ⅱ，数学A，数学B」の範囲から基礎的な知識の理解を問います。出題形式は、基本的な小問を5問程度出題します。

2. データに関する基礎的な問題

図や表などを元にした設問により、読解，説明，推論する力などを問います。

3. 情報に関する基礎的な問題

情報科学の基礎（二進数の計算など）の理解，問題を解くための方法や手順を考える力，情報メディアの性質を理解し適切な表現について考える力，といった情報分野を学ぶにあたり必要となる基礎的な力などを問います。

学校推薦型選抜試験 総合問題Ⅱ 出題ポリシー

学校推薦型選抜試験における総合問題Ⅱでは、入学後にカリキュラムに沿って学んでいく上で知っているべき基礎事項を習得できているか否かを問います。また、数学に現れる様々な事項を理解して論理的に考察したり処理したりすること、さらには身近な事象の理解を深めたり問題解決といった「数学的活動」に関する基礎的な知識の理解と活用力を問います。システム情報科学分野を学ぶにあたり必要となる「学力の3要素」のうち「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を多面的・総合的に評価します。

総合問題Ⅱは、2つの異なる出題範囲の問題から構成されています。

1. 基礎的な数学能力を問う問題

主として「数学Ⅰ，数学Ⅱ，数学A，数学B」の範囲から基礎的な知識の理解を問います。出題形式は、いくつかの小問で構成された問題を2問程度出題します。

2. データに関する基礎的な問題

図や表などを元にした設問により、読解，説明，推論する力などを問います。